
事業完了報告書

テ　　マ： 第16回日本在宅医学会大会 浜松大会

申　請　者： 小野 宏志(医療法人社団 心 坂の上ファミリー
クリニック・坂の上在宅医療支援医院 理事長)

助成対象年度： 2013 年度前期

提出年月日： 2014 年 4 月 1 日

1. 大会名称 第16回日本在宅医学会大会 浜松大会
2. 大会テーマ 「在宅医療 日本の未来への道標」
3. 大会長 小野 宏志（医療法人社団 心 坂の上ファミリークリニック・坂の上在宅医療支援医院 理事長）
4. 開催日時 2014年3月1日（土） 9時30分～21時00分
2014年3月2日（日） 7時50分～17時30分
5. 開催会場 グランドホテル浜松
〒432-8507 静岡県浜松市中区東伊場 1-3-1
6. 主催 一般社団法人 日本在宅医学会
7. 共催 公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団
8. 後援
厚生労働省/静岡県/浜松市/日本医師会/日本歯科医師会/日本看護協会/日本訪問看護財団/日本薬剤師会/日本介護支援専門員協会/日本理学療法士協会/日本作業療法士協会/日本言語聴覚士協会/日本鍼灸師会/全日本鍼灸マッサージ師会/日本介護福祉士会/日本在宅ホスピス協会/全国在宅療養支援診療所連絡会/全国訪問看護事業協会/PCC連絡協議会・PCNS 連絡会/静岡県医師会/静岡県歯科医師会/静岡県看護協会/静岡県訪問看護ステーション協議会/静岡県薬剤師会/静岡県介護支援専門員協会/静岡県社会福祉協議会/静岡県理学療法士会/静岡県作業療法士会/静岡県鍼灸師会/静岡県鍼灸マッサージ師会/静岡県介護福祉士会/浜松政令市医師会/浜松市医師会/浜松市浜北医師会/磐田医師会/浜名医師会/引佐郡医師会/浜松市歯科医師会/浜松市薬剤師会/浜松市介護支援専門員連絡協議会/浜松市社会福祉協議会/静岡新聞社・静岡放送/中日新聞東海本社/静岡第一テレビ/静岡朝日テレビ/テレビ静岡/K-mix/ FM Haro ! /ケーブル・ウィンディ（順不同）
9. 事務局
大会事務局：医療法人社団 心 坂の上ファミリークリニック
運営事務局：株式会社 センtralコンベンションサービス
株式会社 日本旅行

10. 企業・団体のご協力

共催セミナー（ランチョンセミナー：13社 モーニングセミナー：2社）
企業展示（49社） 書籍販売（1社） 抄録集広告（43の団体及び企業）
寄付等（19の団体及び企業）

11. 参加者数：約 3,700 名（医学会 2,998 名、市民公開講座 約 700 名）

➤ 学会参加者 内訳：職種別

職種	参加人数(名)	%
医師・歯科医師	945	32%
看護師	721	24%
事務	265	9%
薬剤師	136	5%
鍼灸師・鍼灸マッサージ師	134	4%
リハビリ(PT・OT・ST)	121	4%
ケアマネジャー	92	3%
MSW	83	3%
介護職	82	3%
歯科衛生士	41	1%
栄養士	27	1%
その他	194	6%
不明	122	4%
学生	35	1%
合計	2998	100%

➤ 学会参加者 内訳：地域別

地域	参加者数(名)	%
北海道	67	2%
東北	121	4%
関東信越	910	30%
東海北陸	1034	34%
近畿	443	15%
中国	145	5%
四国	59	2%
九州	215	7%
不明	4	0%
合計	2998	100%

12. 参加費

		日本在宅医学会 会員	日本在宅医学会 非会員
事前登録	医師・歯科医師	13,000 円	14,000 円
	コメディカル・一般	4,000 円	5,000 円
当日参加	医師・歯科医師	15,000 円	16,000 円
	コメディカル・一般	5,000 円	6,000 円
学生（大学院生を除く）		2,000 円	
市民公開講座		無 料	

13. 感想

在宅医療は、全国的に盛り上がる傾向を見せており、昨年松山での大会はそれまでの 3 倍以上の約 3000 人の参加がありました。今大会は前述のとおり、約 3700 人の参加がありましたことも、在宅医療の盛り上がりを示すところだと思います。我々在宅医療に携わる者としては誠に喜ばしいことです。しかも医師のみでなく、多職種の方々にご参加頂いていることも、大いに心強く感じます。

統計により、多少のデータの違いはありますが、国民の約 6 割の方は最後まで自宅で暮らしたいという気持ちをもっています。しかし、実際に自宅で最期を迎えることができている方は 2 割にも満たない状況です。また、日本は、治す医療においては世界一かも知れませんが、支える医療においては、国民の満足度はまだまだ高いとは決していうことができません。しかし、ここ数年の在宅医学会全国大会の盛り上がりをはじめとして、各地域ごとの様々な地域医療、在宅医療の活動をみていると、国民が求めていることを実現する医療体制づくりが進んでいくのではないかと思います。

今大会では、「在宅医療、日本の未来への道標」というテーマで、在宅医療が日本の未来の医療に対して果たすべき役割を考えていきました。特に、「2025 年 2050 年問題を徹底討論する」のシンポジウムでは、日本医師会 会長の横倉義武先生をはじめ、著名な方々にシンポジストとしてご登壇いただきました。そのほかのシンポジウムにおいても、満席どころか、立ち見が出る会場もあり、とても有意義な討論を会場も巻き込んでできたと思います。

私が申し上げるのはばかられますが、とても活気があり、勢いがあり、在宅医学・在宅医療の未来への発展を感じることができる大会になったのではないかと思います。

在宅医療は、日本国民に求められている医療の一つの形です。支える医療を実践することにより、国民が生き延びることに満足できるように働きかけていきたいと思っています。在宅医療のこの勢いを、今後ますます盛り上げていかなければいけないと思っています。

「在宅医療における浜松宣言」を添付させていただきます。

今回の大会にご協力頂き、誠に有難うございました。

在宅医療における浜松宣言

日本在宅医学会(以下、当会)は、佐藤智先生の『在宅医療を評価し、展望する在宅医学を確立し、病気の方の「生活の質」の向上をめざす』という精神から始まり、これにより私たちは正しく導かれてきました。これからもその精神を忘れることなく在宅医療に取り組んでいくことができれば、私たちは本筋を間違えることなく社会に貢献できると思います。

当会は、病気の方々の生活を支えるための医学的エビデンスを構築する学会です。この「支える医療」のエビデンスを積み立て確立することが出来れば、未来の日本社会への一つの指針を示すことが出来るのです。在宅医療の実際の現場は病気の方や家族の純粋な気持ちに触れ、「支える医療」を最も実践し、研究できる絶好な場です。充実した「支える医療」を実践できる背景には、この「治す医療」の恩恵があります。「支える医療」の提供者には「支える」という視点だけではなく「治す」という視点もまた必要であり、さらに「治す医療」を提供者に「支える」という視点をもって医療にあたる必要があることも広めていく必要があります。

我が国の「死の質の評価」における国民の満足度は、世界各国と比較してむしろ低いという結果が出ております。良質な「支える医療」の提供により、安心して自宅での生活が出来れば、亡くなった時に「良かった」と思える人は多いと思います。私たちは国民一人一人が自らの手で家族が生きていくことを最期まで支え、自らの手で看取っていくことが出来る、「看取る文化」を育まなければなりません。当会は、人が地域で生きること、人生の最期が訪れる時に「良かった」と思えること、家族が「良い看取りが出来た」と感謝の念を抱くことができる社会創りに寄与します。

高齢化は我が国だけでなく世界の傾向です。当会は日本社会のためのみならず、高齢化社会を迎える世界の国々への指針となるような情報を発信できる学会を目指します。今こそ、佐藤智先生の精神を忘れずに、在宅医学会として今まで以上に充実した「在宅医療、支える医療」を実践し、「在宅医学」を確立し、「治す医療」だけでなく「支える医療」においても国民が満足出来るものとし、在宅医療が未来の日本社会を良い方向に導き、未来の日本社会に貢献出来るように考えて実践し、そのことを世界に発信していきましょう。

平成 26 年 3 月 1 日

第 16 回日本在宅医学会大会 浜松大会
大会長 小野 宏志

14. プログラム

代表理事講演 3月1日(土) 14:00~14:30 鳳(中)

「地域包括ケア」構築・推進における日本在宅医学会の役割

前田 憲志(日本在宅医学会 代表理事/大幸砂田橋クリニック 院長)

大会長講演 3月1日(土) 14:30~15:00 鳳(中)

在宅医療 日本の未来への道標

小野 宏志(医療法人社団 心 坂の上ファミリークリニック・坂の上在宅医療支援医院 理事長)

特別講演

特別講演1 3月1日(土) 10:00~10:30 鳳(中)

在宅ケアと国際生活機能分類(ICF)

座長 小野 宏志(医療法人社団 心 坂の上ファミリークリニック・坂の上在宅医療支援医院 理事長)

講師 川島 孝一郎(仙台往診クリニック 院長)

特別講演2 3月1日(土) 10:30~12:00 鳳(中)

死ぬことと、生きることは同じ ~夫・金子 哲雄の闘病と死に併走して~

座長 長尾 和宏(長尾クリニック 院長)

講師 金子 稚子(ライフ・ターミナル・ネットワーク 代表)

シンポジウム

シンポジウム1 3月1日(土) 10:00~12:00 鶴

これからの認知症ケアと在宅医療

座長 平原 佐斗司(東京ふれあい医療生活協同組合 副理事長 梶原診療所 在宅サポートセンター長/病棟医長)

S1-1 新しい認知症施策(オレンジプラン)の概要と今後の認知症ケアのあるべき方向性について

遠藤 英俊(独立行政法人国立長寿医療研究センター 内科総合診療部 部長)

S1-2 認知症初期集中支援を経験して—地域の多職種専門チームによる新たな認知症ケア—

遠矢 純一郎(医療法人社団プラタナス 桜新町アーバンクリニック 院長)

S1-3 地域包括支援センターを医療面から支援するための「高齢者あんしんセンターサポート医」事業を構築した北区の取り組み

小宮山 恵美(東京都北区健康福祉部 介護・医療連携推進担当 副参事)

S1-4 これからの認知症ケアと在宅医療 ～ライフサポートの架け橋をつくろう！～
大谷 るみ子（社会福祉法人東翔会 グループホームふぁみりえ ホーム長）

シンポジウム 2（合同）日本サイコオンコロジー学会 3月1日（土）10：00～12：00 孔雀
在宅医療におけるがん患者・家族の精神心理的ケア

座長 木下 寛也（国立がん研究センター東病院 緩和医療科 科長）
茅根 義和（株式会社東芝 東芝病院 緩和ケア科 部長）

S2-1 「在宅医療継続の障壁となるせん妄に関する研修会」のプログラム開発について
井上 真一郎（岡山大学病院 精神科神経科 助教）

S2-2 精神腫瘍医による地域コンサルテーション活動 ―緩和ケアチームの往診を通じて―
竹内 文一（小田原市立病院 心身医療科 主任部長）

S2-3 在宅医療従事者に向けた“がん患者への認知行動療法”の普及
古賀 晴美（国立がん研究センター東病院 精神腫瘍開発分野 心理療法士）

S2-4 「在宅医療におけるがん患者・家族の精神心理的ケア」日常ケアの中にこころのサポートを
倉持 雅代（浅草医師会立訪問看護ステーション）

S2-5 当院の在宅医療におけるせん妄管理について
青木 茂（医療法人社団 心 坂の上ファミリークリニック 院長）

シンポジウム 3 3月1日（土）15：00～17：30 鳳（中）

2025年 2050年問題を徹底討論する ―我が国の未来予想図を描く―

座長 石垣 泰則（医療法人社団 泰平会 城西神経内科クリニック／コーラルクリニック 理事長）

S3-1 在宅医療の質と量の向上を求めて
西村 周三（国立社会保障・人口問題研究所 所長）

S3-2 日本医師会の医療政策 ―在宅医療について―
横倉 義武（日本医師会 会長）

S3-3 2050年を乗り切るために必要なのは地域包括ケアシステムである
唐澤 剛（厚生労働省 政策統括官(社会保障担当)）

コメンテーター 前田 憲志（日本在宅医学会 代表理事／大幸砂田橋クリニック 院長）

シンポジウム 4 3月1日（土）15：00～18：10 鶴

「生き方に向き合う在宅医療」ドラマを使ったフロアディスカッション形式シンポジウム
「本人の生き方に向き合う医療を目指して」

座長 太田 秀樹（医療法人アスミス 理事長）
鈴木 央（鈴木内科医院 副院長）

S4-1 難病ドラマ「ALS（筋萎縮性側索硬化症） ～揺れる『想い』と『家族』～」
紅谷 浩之（オレンジホームケアクリニック 代表）

S4-2 癌末期ドラマ「五平最期の希望（のぞみ） ～限られたいのちの伝え方～」
市橋 亮一（医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック 代表）

S4-3 「胃ろう」という課題を通して終末期医療を考える ～もう、迷わん～
永井 康徳（医療法人ゆうの森 たんぼぼクリニック 理事長）

シンポジウム 5 3月1日（土）16：40～18：10 鳳（東）

域包括ケア時代に在宅医療がなすべきこと

座長 川越 正平（あおぞら診療所 院長）

S5-1 地域包括ケアシステム：2013年から2025年にいたる工程表
田中 滋（慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 教授）

S5-2 地域包括ケアの担い手を考える 一支えあい育みあうまちづくり
堀田 聡子（労働政策研究・研修機構 研究員）

S5-3 在宅医療・介護連携拠点に期待される役割 ～多職種がチームとなって地域課題に取り
組むための“扇の要”として～
川越 正平（あおぞら診療所 院長）

シンポジウム 6（公募） 3月1日（土）16：40～18：10 孔雀

独居の看取り

座長 小笠原 文雄（医療法人聖徳会 小笠原内科 理事長／院長）

S6-1 当診療所から訪問診療を受けた独居生活者 73人の解析
森 清（社会医療法人財団 大和会 在宅サポートセンター 村山大和診療所 在宅サポー
トセンター センター長）

S6-2 独居の看とりの実際と課題
長尾 和宏（長尾クリニック 院長）

S6-3 15例の独居患者（在宅看取り率93%）を検討して、独居の看取りに最低限必要な条件
を考える
徳田 英弘（医師法人ネリヤ ファミリークリニックネリヤ 理事長）

シンポジウム 7（合同）日本プライマリ・ケア連合学会 3月2日（日）8：20～10：20 鳳（中）

家族全体を「見る」在宅医療

座長 鈴木 央（鈴木内科医院 副院長）

S7-1 家庭医療のグループ診療を行う立場から 家族全体を「見る」在宅医療について
松下 明（社会医療法人清風会 岡山家庭医療センター 奈義ファミリークリニック 所長）

S7-2 グループ診療による在宅医療の意義

英 裕雄（医療法人三育会 理事長）

S7-3 家族全体を「見る」在宅医療と「かかりつけ医」の役割

土橋 正彦（千葉県医師会 副会長／土橋医院 院長）

S7-4 訪問看護師による家族ケアの実際

平原 優美（公益財団法人 日本訪問看護財団 あすか山訪問看護ステーション 統括所長）

シンポジウム 8 3月2日（日）8：20～10：20 鳳（東）

医療と福祉の協働が起こす小児在宅医療のパラダイム転換 ー病院・病気から地域・生活へ

座長 前田 浩利（あおぞら診療所新松戸 院長）

S8-1 NICU から始まる小児在宅医療

田村 正徳（埼玉医科大学総合医療センター 小児科 教授）

S8-2 医療依存度の高い子どもの介護事業所による支援の実際

戸枝 陽基（社会福祉法人むそう NPO 法人ふわり 理事長）

S8-3 生きにくさ育ちにくさを何とかしたい ー相談支援機能を持った訪問看護の実践ー

梶原 厚子（医療法人財団はるたか会・NPO 法人あおぞらネット あおぞら診療所 統括看護管理者）

S8-4 平成 25 年度 小児等在宅医療連携拠点事業の概要とその目的

中村 知夫（国立成育医療研究センター 総合診療部 在宅診療科 医長／医療連携・患者支援センター 在宅医療支援室 室長）

シンポジウム 9 3月2日（日）8：50～10：20 鶴

全国のどの地域でも口腔・栄養ケアを受けられる社会を目指して～地域包括ケアにおける口腔・栄養ケアの具現化～

座長 大石 善也（一般社団法人 全国在宅歯科医療・口腔ケア連絡会 在宅療養支援歯科診療所連絡会 事務局長）

S9-1 柏市総合特区歯科衛生士事務所に期待すること～新しい職域で歯科衛生士の真価が問われる～

渡邊 由紀子（元気なお口研究会 まほろば 代表）

S9-2 日本中どこでも当たり前在宅の栄養ケアを受けられる為に！ ～病院から管理栄養士が地域に出ていくための仕組み作りの試み～

高崎 美幸（医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院 栄養サポート室 室長）

S9-3 『健口サポート PTA 柏』の活動について

和田 和江（大石歯科医院内訪問部 健口サポート PTA 柏）

シンポジウム 10 3月2日（日）8：50～10：20 孔雀

施設看取り

座長 川島 孝一郎（仙台往診クリニック 院長）

S10-1 小規模多機能型居宅介護における看取りについて

小山 剛（高齢者総合ケアセンターこぶし園 総合施設長）

S10-2 認知症グループホームにおける看取り ―関係性の中で育まれる物語の重要性―

内出 幸美（社会福祉法人典人会 専務理事）

S10-3 介護付き有料老人ホーム「はびね福岡野芥」での看取り

江島 裕子（グリーンライフ株式会社 はびね福岡野芥 施設長）

S10-4 介護施設における終末期ケアのあり方について

原田 重樹（社会福祉法人 青山里会 地域福祉部門 副部長）

シンポジウム 11 3月2日（日）8：50～10：20 飛鳥

神経難病 本当に患者が望む医療を提供するためには

座長 石垣 泰則（医療法人社団 泰平会 城西神経内科クリニック／コーラルクリニック 理事長）

S11-1 神経難病の当事者の退院先選択に関する事例を通しての考察

橋本 睦美（独立行政法人国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター 医療福祉相談室 主任医療社会事業専門員）

S11-2 神経難病のケア（当院での取り組みについて）

池邊 紳一郎（医療法人社団 楽佑会 池辺クリニック 理事長）

S11-3 ALS患者とのかかわりについて

丸山 久美子（曲金訪問看護ステーション 所長）

S11-4 当事者からの発信

山田 健弘（NPO 法人 静岡難病ケア市民ネットワーク 難病当事者）

シンポジウム 12 3月2日（日）10：30：～12：00 鳳（中）

看とりに必要な「言語」と「行動」

座長 長尾 和宏（長尾クリニック 院長）

S12-1 援助をわかりやすい言葉にする

小澤 竹俊（めぐみ在宅クリニック 院長）

S12-2 ハグとユーモアを添えた在宅緩和医療を実践して

岡原 仁志（おげんきクリニック 院長）

シンポジウム 13（公募） 3月2日（日）10：30～12：00 鳳（東）

在宅医療を支援する病床

座長 和田 忠志（医療法人社団実幸会 いらはら診療所 在宅医療部長）

S13-1 レスパイトケア病棟の運営と問題点

藤田 拓司（医療法人拓海会 理事長）

S13-2 地域の在宅医療を支える有床診療所の役割と要件 ～当院の入院実績の分析から～

荒木 庸輔（医療法人社団プラタナス 松原アーバンクリニック 事務長）

S13-3 「地域連携」型の在宅療養支援病床運営には、良質な前方と後方連携のネットワークと在宅医師増が必要で～東京・西東京市在宅療養後方支援病院連携モデル事業の報告より～

金子 秀平（武蔵野ファミリークリニック 院長）

S13-4 川崎市立井田病院における在宅ケア患者 24 時間連携診療体制

宮森 正（川崎市立井田病院 かわさき総合ケアセンター 所長）

S13-5 在宅療養を支援する病床との連携 ～在宅療養支援診療所の立場より～

岡村 新一（医療法人おひさま会 おひさまクリニック西宮 院長）

S13-6 病院の特性を生かした在宅医療支援病棟

三浦 久幸（独立行政法人国立長寿医療研究センター 在宅連携医療部 部長）

シンポジウム 14 3月2日（日）10：30～12：00 鶴

在宅医療をすべての地域に！～都市型医療と僻地医療の融合と人材循環～

座長 泰川 恵吾（医療法人 鳥伝白川会 ドクターゴン診療所 宮古島診療所 理事長 院長）

永井 康徳（医療法人ゆうの森 たんぼぼクリニック 理事長）

S14-1 廃止が決まった僻地診療所の再生プロジェクト ～新しい医師派遣方法と積極的な在宅医療で医療過疎地域の診療所を再生させる方法～

永井 康徳（医療法人ゆうの森 たんぼぼクリニック 理事長）

S14-2 医師3年目からの診療所長

望月 崇紘（地域医療振興協会 台東区立台東病院 総合診療科）

S14-3 大学病院医局が、僻地医療に担う役割

住友 和弘（旭川医科大学 第一内科／循環呼吸医療再生フロンティア講座 特任講師）

S14-4 都市部大病院と小離島の救急総合診療

大淵 尚（湘南鎌倉総合病院 救命救急センター センター長）

S14-5 百島診療所の挑戦 全ての瀬戸内海の島々に訪問診療の輪を広げよう！

次田 展之（百島診療所 院長）

シンポジウム 15 3月2日（日）10：30～12：00 孔雀

在宅療養の希望を叶えるための退院支援のあり方

座長 小野沢 滋（北里大学病院 トータルサポートセンター センター長）

S15-1 都市部特定機能病院での退院支援の実際

井上 健朗（昭和大学病院 総合相談センター ソーシャルワーク部門 係長）

S15-2 入院前から始める退院支援

松岡 明美（東海大学医学部附属病院 患者支援センター 主任）

S15-3 在宅療養の現場を受け持つ立場から

吉田 賢史（医療法人社団公朋会 西嶋医院）

S15-4 在宅療養の希望をつなぎ支える退院支援－緩和ケア病棟を有する相談室のソーシャルワーカーの立場から－

田村 里子（東札幌病院 MSW 課 診療部Ⅱ 副部長 MSW 課 課長）

シンポジスト 鈴木 恵子（医療法人社団公朋会 西嶋医院 主任介護支援専門員 保健師）

シンポジウム 16 3月2日（日）13：30～15：00 鳳（中）

つなげる・つづける食支援 ～食支援の地域展開方法を模索する～

座長 洪 英在（独立行政法人国立長寿医療研究センター 在宅連携医療部 高齢者総合診療科）

S16-1 リハビリテーション病院で『口から食べること』を最大限支援するために、心がけ実践していること

金沢 英哲（浜松市リハビリテーション病院 えんげと声のセンター）

S16-2 医療施設からの食支援の地域展開 ～つながりを持つための地域多職種連携～

金子 康彦（独立行政法人国立長寿医療研究センター 栄養管理部 栄養管理室長）

S16-3 回復期リハビリテーション病院における摂食・嚥下障害への対応と地域連携

藤井 航（藤田保健衛生大学医学部 七栗サナトリウム歯科 講師）

S16-4 地域とともに繋げる食支援 ～口を支え食を支える～

石黒 幸枝（地域医療振興協会 地域包括ケアセンターいぶき）

シンポジウム 17 3月2日（日）13：30～15：00 鳳（東）

地域緩和ケア：世界・研究の視点を踏まえて OPTIM 後の日本を見る

企画者 白髭 豊（白髭内科医院 院長）

座長 加藤 雅志（国立がん研究センターがん対策情報センター がん医療支援研究部 部長）

S17-1 日本の地域緩和ケア研究の結果と示唆：積み残された課題の整理

森田 達也（聖隷三方原病院 副院長／緩和と支持治療科部長）

S17-2 英国の地域緩和ケアの現状：プライマリケアと緩和ケアの国から

大石 愛（東京慈恵会医科大学 臨床疫学研究室 非常勤講師）

S17-3 米国における地域緩和ケアの実情

関根 龍一（亀田総合病院 疼痛・緩和ケア科 部長）

S17-4 日本での地域緩和ケアの実践（OPTIM 後）：長崎での実践より

安中 正和（医療法人安中外科・脳神経外科医院 院長）

シンポジウム 18 3月2日(日) 13:30~15:00 鶴

大規模災害と在宅医療 ～東日本大震災後2年の被災地在宅医療について学ぶ～

座長 古屋 聡(山梨市立牧丘病院 整形外科)

S18-1 東日本大震災と在宅医療 ～発災からまちづくりまで～

寺田 尚弘(釜石ファミリークリニック 院長)

S18-2 本吉地区の在宅医療に対する取り組み

齊藤 稔哲(気仙沼市立本吉病院 副院長)

S18-3 大規模災害と在宅医療

長 純一(石巻市立病院開成仮診療所 所長)

シンポジウム 19 3月2日(日) 13:30~15:00 孔雀

がん在宅の未来 ～地域で支えるためにできること～

座長 浜野 淳(筑波大学 医学医療系 講師)

S19-1 きずなでつむぐ地域緩和ケア

加納 麻子(社会医療法人平和会 吉田病院 地域緩和ケアサポートきずな)

S19-2 がん診療の在宅医療と、地域包括ケアへの期待 ～医師の立場から

荒井 康之(生きいき診療所・ゆうき 院長)

S19-3 がん患者にベストケアを提供するために訪問看護師が出来ること ～看-看連携による情報共有をケアに活かす～

扶蕪 由起(医療法人ひばり ホームホスピスひばりクリニック 看護部 師長)

S19-4 施設での療養、看取りを支える ～ご本人・ご家族のおもい～

山本 誠(医療法人社団 心 心で介護坂の上 訪問介護課 サービス提供責任者)

S19-5 がん緩和ケアに関する国内外の政策的動向、および在宅終末期ケアを支える多職種連携のあり方と在宅看取り実現のプロセス要素の抽出に関する研究結果

福井 小紀子(日本赤十字看護大学 地域看護学分野 教授)

パネルディスカッション

パネルディスカッション 1 3月1日(土) 15:00~16:30 鳳(東)

看護の未来を語る ～地域包括ケアに向けて～

座長 秋山 正子(株式会社ケアーズ 白十字訪問看護ステーション 統括所長)

PD1-1 地域包括ケアを汎用性のあるものに ～看護の表在化が鍵～

佐野 けさ美(スギメディカル株式会社 訪問看護・居宅支援運営部 部長)

PD1-2 「看護の未来を語る」 ～与えられた生を充実して過ごすために、看護師だから出来る支援～

松木 満里子(Accommo.Care Service 株式会社 在宅看護 代表取締役)

PD1-3 NICU 退院児のための子育て支援サービスに取り組んで ～家族の始まりの生活を支援する～

平原 真紀（株式会社 TOMATO 代表取締役／訪問看護ステーションベビーノ 所長）

PD1-4 訪問看護と療養通所介護（多機能型事業）により介護ニーズと医療ニーズを併せ持つ障がい児・者から高齢者まで支える在宅支援サービスの取り組み

安藤 真知子（一般社団法人在宅ケアセンターひなたぼっこ 訪問看護・療養通所介護（多機能型事業）統括所長）

パネルディスカッション 2 3月1日（土）15：00～16：30 鳳（西）

薬剤師にどこまで任せてもらえるか

座長 佐田 悦子（一般社団法人 長崎県薬剤師会 常務理事／アクア薬局本店 管理薬剤師）
永江 浩史（ながえ前立腺ケアクリニック 医師）

PD2-1 地域完結型がん医療と薬剤師の役割

蒲生 真紀夫（大崎市民病院・がんセンター 腫瘍内科 がんセンター長）

PD2-2 薬剤師にどこまで任せるか ～長崎での実践を通して～

安中 正和（医療法人安中外科・脳神経外科医院 院長）

PD2-3 病院薬剤師は地域医療連携にどう関わっていくのか

尾関 あゆみ（長崎市立市民病院 薬剤部）

PD2-4 保険調剤薬局の薬剤師は医療従事者！？

坂本 岳志（株式会社メディカルサポート あげぼのファーマシーグループ支援室 在宅支援室 室長）

PD2-5 在宅での薬に関する問題点を解決するための薬剤師の役割 ～薬剤師在宅支援ネットワークの現状とこれからの課題～

飯山 教好（レモン薬局 住吉店 管理薬剤師）

パネルディスカッション 3 3月1日（土）15：00～16：30 孔雀

事務ノウハウの結集が支える在宅医療の面展開 ～診療に貢献する医療事務を目指して（その1：書類編）～

座長 佐々木 友明（医療法人財団千葉健愛会 あおぞら診療所）

PD3-1 診療現場と事務をつなぐ情報共有シート「コスト表」のご紹介

村上 典由（医療法人社団プラタナス 桜新町アーバンクリニック 在宅医療部 事務長）

PD3-2 診療に貢献する医療事務を目指して ～えびす英クリニックの場合～

網屋 修博（えびす英クリニック 事務長）

PD3-3 新規患者受入から療養計画書作成までの流れ

岸本 正人（ドクターゴン鎌倉診療所 事務長）

PD3-4 つなげる書類、つながる書類

湯浅 孝史（医療法人財団千葉健愛会 あおぞら診療所 事務部）

パネルディスカッション4 3月1日（土）15：00～16：30 白鳥

在宅リハビリテーションの現状と課題

座長 安部 能成（千葉県立保健医療大学 健康科学部リハビリテーション学科 准教授）

PD4-1 在宅ケアにおける理学療法士の課題と展望

桑山 浩明（医療法人財団 樹徳会 上ヶ原病院 リハビリテーション室 係長）

PD4-2 がん終末期患者に特化した訪問リハビリテーションの実践～シームレスな関わりを目指して～

三原 絵美（緩和ケア併設 たたらリハビリテーション病院 リハビリテーションセンター 緩和ケア部門 主任）

PD4-3 当事業所における作業療法の取り組みを通して

吉田 幸文（訪問看護ステーションすまあと 作業療法士）

PD4-4 老人保健施設が出来る在宅リハビリテーションの現状と課題

深津 良太（社会福祉法人 真寿会 介護老人保健施設 リハビリセンターあゆみ リハビリテーション課 課長）

PD4-5 言語聴覚士による訪問リハビリテーションの実際 ～私の訪問活動から～

勝又 綾子（医療法人社団 きさらぎ会 緑が丘訪問看護ステーション）

PD4-6 在宅リハビリテーションにおける言語療法の課題と展望

永耒 努（株式会社コンパス 代表取締役）

パネルディスカッション5 3月1日（土）16：40～18：10 鳳（西）

在宅における「老年症候群」の認知症、腰痛症を鍼灸にて対応

座長 高田 常雄（公益社団法人 日本鍼灸師会 業務執行理事 福祉事業担当）

PD5-1 擦過鍼を使った認知症周辺症状の緩和と介護負担の軽減 –8年間のグループホームでの施術で分かってきたこと–

吉村 春生（公益社団法人 大阪府鍼灸師会 介護保険担当 理事）

PD5-2 腰痛–生物心理社会的疼痛症候群–に対する鍼灸の一考察

松浦 正人（公益社団法人 日本鍼灸師会 福祉事業 介護予防委員会 理事）

PD5-3 東京都における、はり・きゅうの保険を適用し、在宅での腰痛症の痛みの緩和施術を行う症例数について

高田 常雄（公益社団法人 日本鍼灸師会 業務執行理事 福祉事業担当）

パネルディスカッション6 3月1日（土）16：40～18：10 白鳥

在宅医療：女性医師の親和性を臨床に活かす ～「家族ケア」のノウハウに迫る～

座長 一戸 由美子（社会医療法人 河北医療財団 東京・杉並家庭医療学センター センター

長)

- PD6-1 生活を支える視点を大事にした医療や看護や介護を通して家族ケアを考える
伊藤 真美 (医療法人社団 花の谷クリニック 院長)
- PD6-2 神経難病の在宅医療における女性医師の親和性
荻野 美恵子 (北里大学医学部神経内科学講師 (北里大学東病院神経内科))
- PD6-3 きっかけは夜中に起こされてオムツを変えるという共通体験でした
鶴岡 優子 (つるかめ診療所 副所長)
- パネリスト 木下 朋雄 (コンフォガーデンクリニック 院長)
矢尾 知恵子 (社会医療法人 河北医療財団 家庭医療学センター 河北訪問看護・
リハビリステーション阿佐ヶ谷 師長/管理者)

パネルディスカッション7 3月2日(日) 13:30~15:00 鳳(西)

在宅医療における病院地域連携室の役割 ー起点あるいはハブとしてー

座長 小林 利彦 (浜松医科大学医学部附属病院 医療福祉支援センター センター長)
名倉 桂古 (社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷浜松病院 外来・在宅連携課
課長)

- PD7-1 地域医療連携室の役割
西村 元一 (日本赤十字社 金沢赤十字病院 副院長)
- PD7-2 総合診療サポートセンターにおける看護師の役割 ー患者を見る・生活を見るー
田渕 典子 (愛媛大学医学部附属病院 副病院長/看護部長)
- PD7-3 在宅医療における、病院でのソーシャルワーカーの役割 ー異なる力でパワー・スピ
ードアップー
福田 美香 (社会医療法人社団三思会 東名厚木病院 医療福祉相談室 課長)
- PD7-4 いばらき診療所の在宅医療
丸山 善治郎 (いばらき診療所みと 院長)

パネルディスカッション8 3月2日(日) 13:30~15:00 飛鳥

認知症高齢者の入院時・退院時支援の現状と課題について

座長 白澤 政和 (桜美林大学大学院 老年学研究科 教授)

- PD8-1 在宅療養支援からの視点 ー新たな地平をめざしてー
高瀬 義昌 (医療法人社団 至高会 たかせクリニック 理事長/院長)
- PD8-2 認知症高齢者の入・退院に際しての支援の現状と課題 ーMSWの立場からー
篠原 純史 (国立病院機構 高崎総合医療センター 地域医療支援・連携センター 医療
社会事業専門職)
- PD8-3 「北九州在宅医療連携拠点事業」を通して見た多職種連携の課題と解決の方策
白木 裕子 (株式会社フジケア 取締役副社長 事業部長)

パネルディスカッション9 3月2日(日) 13:30~15:00 白鳥

在宅介護の継続と充実のために ~利用者の生活支援のための多職種連携の在り方~

座長 内田 千恵子(公益社団法人 日本介護福祉士会 副会長)

PD9-1 介護支援専門員の立場から ~多職種連携に求められる「連携」とは~

鷺見 よしみ(一般社団法人 日本介護支援専門員協会 会長)

PD9-2 在宅介護の継続と充実のために ~理学療法士としての協働とは~

阿部 勉(植草学園大学 保健医療学部 理学療法学科 講師)

PD9-3 「在宅医療の課題と未来」 -在宅看取り普及啓発の取り組みの中で医療福祉連携のあり方-

村田 美穂子(滋賀県介護福祉士会 会長/NPO 法人宅老所 心 理事長)

PD9-4 訪問看護師と介護職の連携について ~定期巡回訪問介護看護を開設して思うこと~

井ノ口 佳子(社会福祉法人 聖隷福祉事業団 訪問看護ステーション住吉 所長)

多職種間連携教育 3月1日(土) 10:00~11:40 鳳(東)

多職種間連携教育 模擬カンファレンス ~公開担当者会議~

座長 木村 幸博(もりおか往診クリニック 院長)

講師 吉村 学(地域医療振興協会 揖斐郡北西部地域医療センター/シティタワー診療所)

教育講演

教育講演1 3月1日(土) 10:00~11:00 鳳(西)

歯科は在宅医療にどこまで関われるのか?関わるのか! ~生きるための食支援は、どこまでの可能性を持っているのか?~

座長 田城 孝雄(放送大学 教養学部 教授)

講師 原 龍馬(医療法人社団同志会 原歯科医院 院長)

教育講演2 3月1日(土) 11:00~12:00 鳳(西)

現場実践に活かす「臨床倫理」の考え方 -終末期医療における緊急時対応を中心とした「地域連携」の構築-

座長 田村 学(医療法人学縁会 おおさか往診クリニック 理事長)

講師 板井 孝孝郎(宮崎大学大学院 医学獣医学総合研究科 生命・医療倫理学分野 教授/
宮崎大学医学部附属病院 臨床倫理部 部長)

教育講演3 3月2日(日) 9:50~10:50 鳳(西)

かかりつけ医の在宅医療 ～超高齢社会 私たちのミッション～

座長 葛谷 雅文 (名古屋大学大学院 医学系研究科 地域在宅医療学老年科学 教授)

講師 太田 秀樹 (医療法人アスミス 理事長)

教育講演 4 3月2日(日) 11:00～12:00 鳳(西)

在宅医療におけるEBM構築のための研究方法

座長 奥山 尚 (奥山内科クリニック 院長)

講師 森田 達也 (聖隷三方原病院 副院長/緩和支援治療科部長)

指導医大会

在宅医学会指導医大会「プリンシプルを学ぶ」シリーズ第4回

家庭医療分野 3月2日(日) 8:50～10:20 白鳥

医療専門職のプロフェッショナリズムと、その教え方を考える

座長 紅谷 浩之 (オレンジホームケアクリニック 代表)

講師 尾藤 誠司 (NHO 東京医療センター 教育研修部 臨床研修科医長)

緩和ケア分野 3月2日(日) 10:30～12:00 白鳥

緩和ケアのプリンシプル『在宅医療を支える多職種によるチーム医療 信念対立を中心に』

座長 古賀 友之 (のぞみの花クリニック 院長)

講師 岡本 拓也 (洞爺温泉病院 ホスピス緩和ケア ホスピス長)

事務 意見交換会 3月1日(土) 16:40～18:10 飛鳥

事務 集まれ医療事務! 2014年診療報酬改定意見交換

企画者 松澤 亮 (医療法人財団千葉健愛会 あおぞら診療所高知潮江 事務長)

ランチョンセミナー

ランチョンセミナー1 3月1日(土) 12:20～13:20 鳳(中)

共催: 株式会社大塚製薬工場

病院から在宅までの栄養管理

座長 石垣 泰則 (医療法人社団 泰平会 城西神経内科クリニック/コーラルクリニック 理事長)

講師 岡田 晋吾 (北美原クリニック 理事長)

ランチョンセミナー2 3月1日(土) 12:20～13:20 鳳(東)

共催：大日本住友製薬株式会社

小笠原先生、ひとりで家で死ねますか？～遠隔診療利用型在宅医療モデル事業(岐阜モデル)～

座長 井上 聡 (聖隷三方原病院 聖隷ホスピス 所長)

講師 小笠原 文雄 (医療法人聖徳会 小笠原内科 院長/日本在宅ホスピス協会 会長)

ランチョンセミナー3 3月1日(土) 12:20～13:20 鳳(西)

共催：グラクソ・スミスクライン株式会社

ボツリヌス治療も在宅必要テクニックでは？在宅医療における痙縮患者の治療と管理の提唱

座長 田中 茂樹 (一般社団法人 巨樹の会 蒲田リハビリテーション病院 院長)

講師 伊藤 守 (いとうまもる診療所院長兼希望が丘訪問看護ステーション代表)

ランチョンセミナー4 3月1日(土) 12:20～13:20 鶴

共催：アボット ジャパン株式会社

健康寿命の延伸のためにできること ～経口栄養サポート(ONS)の効用について～

座長 秋下 雅弘 (東京大学大学院 医学系研究科 加齢医学 教授)

講師 馬見塚 勝郎 (一般社団法人藤元メディカルシステム藤元総合病院 緩和ケア・在宅療養科部長)

東 小夜里 (一般社団法人藤元メディカルシステム藤元総合病院 外来訪問看護部 主任看護師)

ランチョンセミナー5 3月1日(土) 12:20～13:20 孔雀

共催：ノバルティスファーマ株式会社

心の耳を研ぎすまして 今、在宅医療は ～もの忘れ、あれっ？と思ったら～

座長 森 清 (社会医療法人財団 大和会 在宅サポートセンター センター長)

講師 本多 あん奴 (城西神経内科クリニック 神経内科 診療部部長)

ランチョンセミナー6 3月1日(土) 12:20～13:20 白鳥

共催：GEヘルスケア・ジャパン株式会社

救命救急医が考えるポケットエコーを活用した在宅医療と病院の連携

座長 泰川 恵吾 (ドクターゴン診療所 理事長)

医診伝心！Vscanで繋ぐ在宅と病院のスムーズな連携 ～地域全体のHAPPYを目指して～

講師 小林 只 (六ヶ所村国民健康保険尾駁診療所 医長)

救急診療における、エコーに自信がない医療者のためのエコー

講師 太田 凡 (京都府立医科大学 救急医療学教室 教授)

ランチョンセミナー7 3月2日(日) 12:20～13:20 鳳(中) メイン

共催：小野薬品工業株式会社

認知症でみられる理解できない症状・不可解な行動はなぜ生じるのか？ ～認知心理学，神経心理学から認知症症状を考える～

座長 レシャード カレッド（レシャード医院 院長）

講師 川畑 信也（八千代病院 神経内科 部長／愛知県認知症疾患医療センター センター長）

ランチョンセミナー8 3月2日（日）12：20～13：20 鳳（東）

共催：第一三共株式会社

介護負担に根ざした認知症診療

座長 大城 一（医療法人社団 大法会 遠江病院 理事長）

講師 吉岩 あおい（大分大学医学部附属病院 総合内科・総合診療科 講師）

ランチョンセミナー9 3月2日（日）12：20～13：20 鳳（西）

共催：武田薬品工業株式会社

認知症 462万人時代のパラダイムシフト 薬物療法のコツとNG

座長 木之下 徹（医療法人社団 こだま会こだまクリニック 一般内科 院長）

講師 奥村 歩（医療法人 三歩会 おくむらクリニック 理事長）

ランチョンセミナー10 3月2日（日）12：20～13：20 鶴

共催：エーザイ株式会社

認知症在宅医療の基本課題 -今とこれから-

座長 小野 宏志（医療法人社団 心 坂の上ファミリークリニック・坂の上在宅医療支援医院 理事長）

講師 長谷川 和夫（認知症介護研究・研修東京センター 名誉センター長）

ランチョンセミナー11 3月2日（日）12：20～13：20 孔雀

共催：久光製薬株式会社

在宅での癌緩和ケア

座長 永井 康徳（医療法人ゆうの森 たんぼぽクリニック 理事長）

講師 小笠原 一夫（医療法人一歩会 緩和ケア診療所・いっぼ 院長）

ランチョンセミナー12 3月2日（日）12：20～13：20 飛鳥

共催：セイリン株式会社

在宅における統合医療 ～医療と介護とセルフケアのはざまで～

座長 小松 秀人（公益社団法人 日本鍼灸師会 副会長）

講師 織田 聡（一般社団法人 日本統合医療支援センター 代表理事）

ランチョンセミナー13 3月2日(日) 12:20~13:20 白鳥

共催: ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社

往診でも外来でも もっと在宅心不全管理が楽になる! cobas h 232 の NT-proBNP 迅速検査
を用いたコツ

座長 山中 崇(東京女子医科大学東医療センター 在宅医療部 准教授)

講師 久島 和洋(医療法人 鳥伝白川会 ドクターゴン鎌倉診療所 院長)

モーニングセミナー

モーニングセミナー1 3月2日(日) 7:50~8:40 鳳(西)

在宅でも必須!? がん疼痛治療のためのオピオイド鎮痛薬 ~薬剤選択する時に役立つ知識~

座長 山路 義生(医療法人社団友志会 ライフケアクリニック希望(のぞみ) 院長)

講師 山口 崇(神戸大学医学部附属病院 腫瘍センター 緩和支援診療科/緩和ケアチーム
特定助教)

モーニングセミナー2 3月2日(日) 7:50~8:40 鶴

早起きは三文の徳! 在宅医療はじめの一步 ~在宅医療の質を高めるための実践知識とノ
ウハウを学ぼう~

座長 市橋 亮一(医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック 代表)

講師 永井 康徳(医療法人ゆうの森 たんぽぽクリニック 理事長)

江籠平 紀子(医療法人ゆうの森 たんぽぽクリニック 事務局 課長)

モーニングセミナー3 3月2日(日) 7:50~8:40 孔雀

共催: 大正富山医薬品株式会社/中外製薬株式会社

在宅医療における骨粗鬆症診療

座長 木下 朋雄(曙光会 コンフォガーデンクリニック 院長)

講師 山内 美香(島根大学医学部附属病院 内分泌代謝内科 講師)

モーニングセミナー4 3月2日(日) 7:50~8:40 飛鳥

訪問診療・訪問看護における医療処置について考えましょう! 一胃瘻・経鼻胃管・気管切開・
尿道カテーテルの日常対応・緊急対応・トラブルの実態一

座長 磯沼 弘(順天堂大学医学部 総合診療科 先任准教授)

講師 木村 琢磨(北里大学医学部 総合診療医学 准教授/地域総合医療学・特任准教授)

優秀演題 口演 3月1日(土) 11:00~12:00 白鳥

座長 前田 憲志(日本在宅医学会 代表理事/大幸砂田橋クリニック 院長)

前沢 政治(京極町国民健康保険診療所 所長)

ES1 病院救急部と在宅療養支援診療所の円滑な連携に向けて～救急搬送症例における在宅診療所からの情報提供についての検討～

遠藤 拓郎(関東労災病院/医療法人プラタナス 桜新町アーバンクリニック)

ES2 訪問診療・訪問看護における胃瘻チューブの交換に関する実態調査

木村 琢磨(北里大学医学部総合診療医学)

ES3 在宅末期がん患者と主介護者に対する在宅医師の説明内容と看取りに関する研究

千葉 宏毅(東北大学病院 卒後研修センター)

ES4 小児在宅医療における退院調整と訪問診療導入に関する検討 ～子ども在宅クリニック あおぞら診療所墨田開設からの2年半を振り返って～

池田 有美(子ども在宅クリニック あおぞら診療所墨田)

ES5 実践報告:本人意思が確認できない患者のための意思決定支援の方法 ～時間軸を踏まえた医療と介護を統合するアプローチの普及を目指して～

川越 正平(あおぞら診療所)

ES6 在宅看取りに影響する要因の検討

平山 将司(いしが在宅ケアクリニック)

指定・一般演題 口演1 3月1日(土) 10:00~11:00 白鳥

座長 横山 和正(順天堂大学附属順天堂医院 脳神経内科)

O1-1 多職種合同カンファレンスの質の評価と効果に関する研究 ～果たして多職種カンファレンスは意味があるのか～

中里 和弘(東京都健康長寿医療センター研究所)

O1-2 在宅看取りを行った非がん疾患の終末期に認める臨床的課題とその対応について

児玉 麻衣子(オレンジホームケアクリニック)

O1-3 船橋南部地域における介護負担調査 負担感が高い40代の検討

鈴木 ひとみ(船橋南部在宅療養研究会・本町在宅介護支援センター)

O1-4 ケーススタディから創出された多職種連携ルールづくりによるネットワーク構築

木全 真理(東京大学高齢社会総合研究機構)

O1-5 在宅療養者に対する医薬品提供の推進に向けた一考察

串田 一樹(昭和薬科大学 医薬情報評価教育串田研究室)

O1-6 病院、在宅の枠を超えた栄養という視点での多職種連携 ～「在宅栄養支援の和・愛知」の活動報告 発足から一年半が経過して～

今泉 良典(独立行政法人国立長寿医療研究センター)

指定・一般演題 口演2 3月2日(日) 8:50~9:40 鳳(西)

座長 井手 宏(愛知国際病院 理事長)

O2-1 急性期病院における医療介護連携推進委員会の取り組み~退院支援の枠組みを越えて~

千野 正之(佐久総合病院 地域ケア科)

O2-2 終末期がん患者の在宅療養における在宅支援診療所訪問同行看護師が果たす役割

石井 利明(石井医院)

O2-3 訪問診療クリニックにおける 院内薬剤師往診同行の役割と実際

大須賀 悠子(医療法人社団プラタナス 桜新町アーバンクリニック)

O2-4 大学医学部における在宅医療教育の現状と課題

和田 忠志(医療法人社団実幸会 いらはら診療所 在宅医療部)

O2-5 在宅末期癌患者に対する訪問リハのニーズとは?

中田 隆文(須藤内科クリニック)

指定・一般演題 口演3 3月2日(日) 10:30~12:00 飛鳥

座長 今村 昌幹(沖縄県立八重山病院 内科 医療部長)

坂本 仁(医療法人社団 坂本医院 院長)

O3-1 在宅医療チームによる高齢者施設でのノロウイルス感染予防啓発活動No.2 ~感染対策DVDの作成と活用~

亀川 真智子(ひらまつ在宅療養支援診療所)

O3-2 訪問看護師と診診連携でおこなうミックス型診療所の在宅医療

出水 明(医療法人 出水クリニック)

O3-3 NICUから在宅酸素療法にて退院となった患者の予後調査~過去10年間を振り返って~

徳増 裕宣(倉敷中央病院 小児科兼臨床研究センター)

O3-4 脳血管疾患・神経変性疾患を有する在宅療養患者に対して嚥下内視鏡を用いて嚥下機能評価を行った104症例の報告

田實 仁(太田歯科 訪問歯科診療センター)

O3-5 小児在宅医療における多職種カンファレンス

高橋 昭彦(ひばりクリニック)

O3-6 在宅療養中のがん患者に対する病院緩和ケアチーム専従医師の訪問状況

和泉 典子(鶴岡市立荘内病院 内科・緩和ケアチーム)

O3-7 多職種協働を簡単に行える在宅医療連携システム「ゆい」について1-コンセプトと多職種協働で使える仕組みについて-

木村 幸博(もりおか往診クリニック)

O3-8 多職種で開発した在宅医療導入シート

関根 有沙（群馬家庭医療学センター 前橋協立診療所）

O3-9 強化型在宅支援病院の病床機能の役割

青木 達人（函館稜北病院）

ポスターセッション

3月1日（土）15：00～17：00 演題数：120題 レアランジェ、桃山

テーマ：未来につながる在宅医療の実践・研究、在宅医療の後方支援、施設での在宅医療、連携・多職種協働、新しい取り組み、意志決定支援、家族ケア・グリーフケア、在宅医療、訪問看護、診断・治療、栄養管理、ITの活用、僻地在宅医療・災害時の在宅医療

3月2日（日）10：00～12：00 演題数：120題 レアランジェ、桃山

テーマ：在宅医療、診療所の連携、在宅療養を支援する病床、訪問診療のマネジメント、看取りのケア、訪問看護・小児在宅医療、新しい取り組み、未来につながる在宅医療の実践・研究、一人開業の訪問診療、独居の看取り・非癌の緩和ケア、歯科・口腔ケア、連携・多職種協働、在宅医療連携拠点事業、薬剤師の関わり、訪問リハビリ

謝辞

今回の大会に対し、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団より、助成をいただいたことに深謝致します。